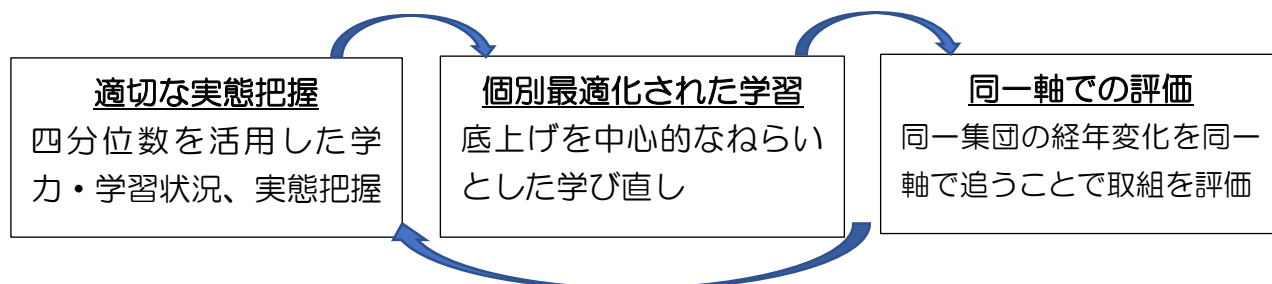


令和4年度 長崎市立深堀小学校学力向上プラン

0、学カプランのねらい

本プランでは、学カテスト（算数科）において四分位数で区切られた最下位25%層に該当する児童を中心的なターゲットとし、全体的な「底上げ」をねらった取組を行う。

1、学カプランの概要



2、学力向上に向けた3ステップ

(1) 適切な実態把握

本校は単学級の学年もあり、大規模校と言える児童の人数ではない。そのため、全国平均値を超えたや下回ったなどの「平均値」で学年や学級の実態把握をすることは適切ではないと考えた。そこで、本プランでは、四分位数を用いて実態把握を行う。四分位数により区切られた最下位25%の集団に何人の児童が該当しているかで実態をとらえる。

令和4年度の3年生以上の学カテストの結果を分析した結果、各学年でかなりの児童数が最下位25%に該当していることが分かった。

(2) 個別最適化された学習

本プランでは、最下位25%に該当された児童の底上げを中心的なねらいとしている。そこで、それぞれの児童に応じた（個別最適化された）学習をさせていくことで底上げを図る。具体的な取組としては、eライブラリの確認テストを合格するまで何度も粘り強く行わせる。また、確認テストは現在の学年のものだけでなく、過去に遡り1年生の内容から確認テストを行わせることで、「復習」・「学び直し」を徹底して取り組ませる。そして、学び直しは保護者と一緒に行うよう理解と協力をお願いする。

(3) 同一軸での評価

最下位25%に該当する児童数の経年変化を追うことで、本プランの評価を行う。本プランの目標値を以下のように設定する。

年度	3年生	4年生（昨年度比）	5年生（昨年度比）	6年生（昨年度比）
令和5年度		10人（－3人）	11人（－2人）	16人（－3人）
令和6年度			8人（－2人）	10人（－1人）
令和7年度				7人（－1人）